

朝鮮製鋼所

鉄鋼鑄造事業が重要基礎産業として、また国力発展の原動力として認識されてきたのは最近二、三年來のことである。従来我が国においては精密機械は元より鉄製品といえば、粗大品にいたるまで需要の大半を独逸ないし英米製品の輸入に俟つ有様であった。特に鑄造事業の如きは裏街の鑄物工場が幼稚な技術を以て閑散期の手間賃仕事をするに止り、大会社のこの方面に意を用いざること甚だしきものあった。事実技術的の關係のみでなく、経済的にも国産品が却って高価であったためである。

然るに満州事変以來の國際情勢の激変は重要鉄鋼事業の他国依存を許さず、国力発展のためには目先の区々たる利害を超越して斯業の生産力を大拡張するの要ありとして政府は萬般の保護政策を講じてこれを助長し、遂に現下の殷盛を招来するに至った。株式会社朝鮮製鋼所はかかる状勢の下に昭和 12 年 6 月資本金 50 万円を以て仁川の有力者平野稔彦氏を中心として創業せられたのである。

臨海工場地帯万石町の入口山手寄り一体の建造物が即ち同社仁川工場である。仁川駅より約半キロの地点に敷地 4 千坪を占め、鑄造工場・機械工場・木型工場・変電所他計 13 棟、門を入れば事務所と向かいあって左手に稻荷神社をまつり傍らに告知版がある。曰く「国家興隆の基は国民精神の剛健にあり」と。当社製品もまた剛健無比歟。一行を案内せられた平野代表取締役は元綿布貿易業、綿業禁制を予見して柔らかい綿より堅い鉄に転業せる時局人である。社外の交渉はもとより社業運営の一切は同氏の信念と努力によって統制強行され、しかも社内良く一致協力、放漫的尨大型よりも堅実な小型会社としての発展大成を目標とせらるると聞く。

現在同社の主製品は粗大機械類、鉦山土木用機械工具、車輛部品の鑄造である。従って原料手当の如何は直接収益を左右して社業全般に響くが、鮮内は幸にして内地と異なり原料屑鉄の手当容易で特級品 110 円見当の由である。

工場の設備は未だ創業日尚浅く完全に整備せりとは言い難いが、内鮮人工員 250 名、3 屯電気炉を主基として現在製鋼量月当たり約 100 屯、鑄造製品 60 屯を産し、半期約 60 万円を販売し、前期は対資本利益率 1 割 8 分の成績を挙げている。同工場の主体は製鋼鑄造工場である。3 屯電気炉他石炭炉 4 基、電動走行起重機 2 発を備え炉口よりほとばしる赤熱の鋼湯は起重機によって鑄型に運搬せられ注入後僅々 1 時間にして成型機械工場に移されて仕上げをかけられる。素人の悲しさで製品の良否工程の巧稚を判別するだけの鑑識眼を有たぬのを遺憾とするが、同社が徒らに流行の精密機器に手を着けず、短期に換金せられてしかも回転率 100% の実利的製品に着目せるところ流石に平野氏の面目躍如たるものがある。しかも鉄鋼に関しては一權威たるのプライドを有する太田技術部長（元満鉄系満洲鉄鋼技師）が主宰する工場だけあって、工場特有の設備沢山で見学者を驚かすの愚を敢えてせず、寧ろスクラップの山が見る見る炉中に鉄の熱湯と化し、あまりに簡便に或いは車輪となり、或いは搗鉦機へと変型していくのに驚かされる。